

2 分析結果の要約

平成 23 年度「基礎・基本」定着状況調査

分析 1

教科の基礎的・基本的な学習内容の定着状況

- 基礎的・基本的な学習内容は、おおむね定着している。
- 中学校国語「読むこと」の領域の定着が不十分である。

分析 2

平均通過率の高い学校で行っている指導や研修

- 相手や目的に応じて表現の仕方を変える指導に重点を置いている。
- 既習内容の活用、他の文章や資料との比較、見通しや予想など、考える方法を教える指導に重点を置いている。
- 結論先行型で、根拠を挙げて自分の考えを述べたり書いたりする指導に重点を置いている。
- 予習や復習の仕方など、家庭学習のやり方について指導をしている。
- 思考力・表現力の育成に焦点を当てた研修を行っている。
- 授業において、児童生徒に何をどこまで達成するのかという具体的なめあてを示している。

分析 3

通過率 30%未満の児童生徒の状況

- <国語>
- 小・中学校とも「書くこと」の領域が最も低く、県平均との差も最も大きい。
- <算数・数学>
- 小学校では「数量関係」の領域が最も県平均との差が大きい、中学校では「数と式」や「関数」の領域で県平均との差が大きくなっている。
- <英語>
- 「話すこと」の領域は、他の領域と比較すると高く、県平均との差も最も小さい。
 - 「書くこと」の領域は、通過率が最も低く、県平均との差も大きい。

分析 6

中学校学力向上対策事業 研究指定校の状況

- 通過率が県平均を上回っている指定校の割合は約80%である。
- 調査開始年度からの伸びが県全体の伸びを上回っている指定校は約60%である。
- 指定校では、3教科とも県平均より30%未満の生徒の割合が少なく、80%以上の生徒の割合が多い。
- 指定校の結果を平成21年度と比較したところ、3教科とも30%未満の生徒の割合が減少し、80%以上の生徒の割合が増加している。

学校質問紙

児童生徒質問紙

学校の指導内容・方法

児童生徒の生活と学習に関する意識・実態

分析 5

3年間、通過率が県平均以上の学校の取組

- 既習内容の活用、他の文章や資料との比較、見通しや予想など、考える方法を教える指導に重点を置いている。
- 結論先行型で、根拠を挙げて自分の考えを述べたり書いたりする指導に重点を置いている。
- 「広島県教育資料」を活用した研修を行っている。
- 「基礎・基本」定着状況調査報告書の指導改善事例を活用した授業研究を行っている。
- 予習や復習の仕方など、家庭学習のやり方について指導をしている。

分析 4

質問紙調査結果の概要

- 児童生徒の意識・実態、学校の指導内容・方法は改善されているものが多い。
- 「毎日朝食を食べています。」「ふだん（月曜日～金曜日）、同じくらいの時刻に起きています。」と回答した児童生徒の方が、通過率が高い。
- 家庭学習に関する設問については、学校の指導と児童生徒の回答状況に 30 ポイント以上の差がある。

学校の指導内容・方法

児童生徒の生活と学習に関する意識・実態

学校質問紙

児童生徒質問紙

平成 22 年度「基礎・基本」定着状況調査

平成 21 年度「基礎・基本」定着状況調査